

教 師 ノ ー ト

日付	2022年 7月 3日
単元	創世記・2
テーマ	神のあわれみ
タイトル	カインとアベル
テキスト	創世記 4:1-16
参照箇所	ヘブル 11:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 51:17 or 78:38	
AG 日曜学校教案参照箇所 小上 1 巻 1 題 3 課	
メモ(情報・例話など) 先週の樂園追放に続き、今週は殺人のお話ですので、ともすれば、暗い印象や怖いイメージのメッセージになってしまいます。神さまが罪を嫌われることは強調しつつ、同時に神さまの愛と救いの計画について語っていくことが大切です。神さまは罪を嫌われますが、人を愛されます。バランスのとれた内容を心がけ、希望をあたえるメッセージとなるように準備しましょう。	
□導入 ニュースでは毎日のように悲しい殺人事件のことを聞きます。今日は世界で初めに起こった殺人事件のお話です。	
□ポイント1 神さまは私たちの心を見られます (1～5a節)なぜ神さまは、アベルのささげものにだけ「目を留められた」のでしょうか？(メッセンジャーが答えを言う前に、子どもたちといっしょに自由に想像してみましょう。) 古代においても現代においても最も一般的な解釈は、兄弟の礼拝の心の姿勢の違いに注目するものです。カインが作物の中から単にいくつかを持ってきてささげたのに対して、アベルは「羊の初子の中から、それも最良のもの」を持ってきました。カインとアベルの違いは、神さまを礼拝する心・信仰姿勢の違いであり、それがささげものに表れたのです(ヘブル11:4)。私たちが礼拝するときも、神さまは私たちの心をごらんになります。その違いは神さまだけに分かるものです。外側を立派に見せるのではなく、内側がいつも神さまによるこばれるものであるように礼拝を(奉仕・献金も)ささげましょう。	
☞確かに、アベルを選ばれた理由は明記されていませんし、神さまが何をみこころによって選ばれるかは、私たちに計り知れません。しかし、神さまが、外側でなく内面を見られるお方であることは間違いありません(1サムエル16:7)。旧約のささげものに関する律法は、完全で傷のない動物がささげられるべきとしています(レビ1:3、22:20～22など)。ダビデも「いいえ、私はどうしても、代金を払って、あなたから買いたいのです。費用もかけずに、私の神、主に、全焼のいけにえをささげたくありません。」(2サムエル24:24)と礼拝に対する態度を示しています。	
□ポイント2 神さまは、素直な心を喜ばれます (5b～8節)カインは、神さまが自分のささげものに目を留めてくださらなかったの、「ひどく怒り」ました。「顔をふせた」カインの態度から、感情的に非常に怒り、心に不満をもっているのが分かります。そこで、神さまは、「あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる」と語りかけられました。この原文は解釈が難解ですが、①心にやましいことがなければ、神さまの前にしっかり顔を上げられるはず、②もし前の行動が正しくなかったとしても、いま悔い改めればすぐにでも受け入れられる、ということでしょう。自分が親や先生の前に顔を上げられないときのことを考えてみましょう。	

もし、罪の心のままでいると、それを狙っている悪い誘惑に捕らえられ、さらに大きな罪を犯してしまい、心はどんどん腐っていってしまいます(罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている)。だから誘惑に負けて悪に傾いていくのではなく、人は自分の心をコントロールしなければなりません(あなたは、それを治めるべきである)。私たちには、助け主なる聖霊さまがともにいてくださり、神さまに喜ばれる方を選択することができます。

しかし、恐ろしいことに…カインはだれもない野原にアベルを誘い出し、殺してしまいました。私たちも、小さなきっかけから、心に怒りを抱いてしまうことがあります。それを、そのままにしていると、殺人という大きな罪に発展してしまう可能性があるのです。

☞兄弟を殺すなんて、本当に恐ろしいことです。8節に「弟アベル」という表現が2度も使われています。兄弟の結びつきは、当時の方が、今の私たちのそれより強かったかもしれません。ニュースやドラマで殺人ということばを聞きなれているかもしれません。しかしメッセンジャーはこの恐ろしい罪のシーンを軽々しい口調にならないよう、緊張感をもって語りましょう。

□ポイント3 神さまは、あわれみ深く待っておられます

(9～15節)神さまはカインに「弟アベルはどこにいるのか?」ときかれましました。アベルが何をしたのか、今どこにいるのか、全てご存知だったはずです。これは、カインが「じつは…」と罪を自分から告白して、改心できるように、神さまがチャンスを与えられたのではないのでしょうか。しかし、カインは「知りません」と明らかかなウソを言いました。それどころか、「私は弟の番人なのではないでしょうか?」と非常に無礼な警句をもって神さまに答えました。神さまはカインを地上をさまよい歩くさすらい人にされました。罪を告白するチャンスに背を向けてばかりいると、私たちも神さまから遠くはなれてしまいます。心に悪い思いが浮かんだら、すぐに神さまの前にもって行くべきです。罪を犯してしまったら、素直に悔い改めることが大切です。神さまは、必ずゆるしてくださいませ。現にカインでさえも、見捨てられることはありませんでした。神さまは、カインをあわれんで、「ひとつのしるし」を与えて、殺人から守られるようにしてくださいました。

☞先週に引き続き、私たちの罪は、キリストの十字架によってゆるされたことを語りましょう。

☞どんな「しるし」でカインを守られたかは明確にはわかりません。

暗唱聖句を読み上げます

いつも素直に悔い改めましょう。砕かれた魂(素直にごめんなさいと言える心)をささげましょう。神さまはそれを喜ばれます。神さまは私たちの内側を見られます。

□結論 どんな罪人をも神さまは、待っておられます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまは、罪を犯す人を見捨てるのではなく、素直に罪を悔い改めるなら、喜んでゆるしてくださるお方です。イエスさまを信じているあなたは救われていますが、まだ罪を犯してしまうことがあります。毎日かならずお祈りの時間をとり、イエスさまにあなたの心を見てもらいましょう。罪が示されたら、そのとき素直な気持ちで悔い改めましょう。神さまはそのような生活をとっても喜ばれるんだよ。小さな罪を放っておくと、殺人のような大きな罪になる恐れがあるよ。